

鳥獣専門指導員の活動事例

2016年にクマの大量出没が起き、連日のカキの被害
対応



この地域は、これまでクマによるカキの被害はほとん
ど発生していなかった。。



電気柵・トタン巻きの設置指導、カキもぎ。

⇒住民への電気柵普及

⇒市町担当者職員のスキルアップ

現場対応で浮かび上がる課題



捕獲、被害対策をしても被害が止まらない



空き家のカキ被害は誰が対策をする・・・

高齢者のカキ対策は・・・

カキを伐採したくてもできな・・・

クマ対策検討会

【住民】

クマと人とどちらが大事なんだ！
保護しているからこんなことになる！
事故が起きたらどうする！



【猟師：O氏】

O氏：鳥獣専門指導員と一緒に対策を行っていた。
・トタンを巻いたり、電気柵などの被害防除が一番効果的だった！

今まで捕獲一辺倒だった猟師が対策検討会の場で、このような発言をしてくれたのは総合的な対策の大きな一歩！

・甘力キ：214本 渋力キ：130本 合計344本
⇒伐採：7本 伐採可能な木：27本



検討会后

⇒O氏が中心となり力キの本数と被害木の本数を調査



地域に精通している猟師がやってくれると地域が動く！

⇒鳥獣専門指導員の現場密着の活動による地域との連携

鳥獣専門指導員の役割

当初の目的は、
おもにツキノワグマの保護管理対策



二ホンジカの課題、外来生物の生息拡大
イノシシ、サルによる被害も依然として発生



鳥獣の被害対策の全般に対応

現場での住民（地域）・市町との連携



何でもしてくれる便利屋さん・・・？。

被害対策等の相談，助言，指導，啓発，調査



現場密着の鳥獣専門指導員の必要性

- ・被害発生があれば現場に駆けつけるフットワーク。
- ・現場対応時は市町担当者と一緒にいて情報を共有。
- ・住民－地域－市町－県 → 相互のパイプ役

鳥獣類の被害対策に現地で専門的に対応できる人材の配置等が多様な連携の力ギになると考える。